

Doc 2772

檢察書類第二七七二番

B 級及 C 級犯行

佛 領 印 度 支 那

國際檢察部佛蘭西課

一九四七年一月

佛蘭西代表副檢察官

ロベール・オネト

書類提出者

ロヂエ・ドウボ 少佐

Doc 2772

第七一七六頁ニ吾人ハ次ノ如キ文ヲ讀ミ得ル

「歸方日本ノ要求ヲ棄却スルトモ兩國ノ關係ハ
戰爭狀態ニアルトハ見做サレザルベシ、サレ
ド日本ハ佛印ニ屬スル現存條約ニ束縛サルル
コトナキコト」ト。

二、被暴被害類第二六五五號、法定受理監査第六
六五號、法定記録第七一九三及七一九四頁ハ佛
蘭西國政府ヨリ日本政府ニ對シ皇軍ニヨリ印度
支那住民ニ行ハレタ暴虐問題ニツキ發セラレタ
嚴肅ナ警告文ヲ摘揚シタモノデアル。

三、被暴被害類第二六六七、法定受理監査第六六
三號、第七頁、結語、最後ノ節、法定記録第七
一八一及七一八二頁ノ中ニ日本南方軍總司令部
ハ公言シテ言ハク

「且又佛印ニ對スル措置ハ東京カラノ命令ニ基
イタモノデアリ外地軍隊ノ獨斷的決意ニ依ツ
タモノデハナイ。總テノ日本軍ハ將兵モ官吏
モ非戦闘員モ如何ニ下級ノ地位ニアルモノモ
常ニ上官ノ命ニヨツテノミ彼等ニ與ヘラレタ
ル各義務ニ從ヒ彼等ノ責務ヲ完遂セルモノデ
アル。」ト。

Doc 2772

法廷ノ認許ヲ受ケ不告訴ノ之ノ部門ハ之レヨリ
平官ノ協力者デアル、ロヂエ・ドウボ少佐ニヨ
リ提起サレルノデアル。

A ー 民 間 人

一、檢察側書類第二七七二―I―I

デュリアン・レミイ / JULIEN Remy /

ノ口供書ヲ證據文書トシテ法廷ニ提出スル。

コノ書類ニ於テ證人ハ安南 / ANNAM / 榮
ノ VINH / 市ノ日本憲兵隊署内デ僑民西民間
人及一アメリカ航空將校ヘ與ヘタ虐待ト拷問ヲ
説述シテ居ル。之等犠牲者ノ數人ハ蒙ツタ取扱
ノタメ死亡シタ。

法定ノ許可ヲ受ケ不證據文ノ朗讀ニ移ル。

二、檢察側書類第二七七二―I―I 2

ノ口供書

ソ檢證トシ法廷ヘ提出スル。ソノ中傍線シタ抜萃
ノ箇所ヲ證據文トシテ保持スル。

コノ書類ハ榮ノ VINH / 市ノ日本憲兵隊ニ於
ケル抑留民間人ノ運命ニツキ既ニ提出シタ書類第
二七七二―I―I 法廷證據材料。ラ完結サセ
ルモノデアル。

Doc 2772

同書ハシユロイ / S U R E A U / 及エリエ /

U R I E T / 兩氏ニ加ヘタ死ヲ伴ツタ刑罰ノ詳

細ヲ述べタモノデアル。

法廷ノ許可ヲ受ケ本證據文ノ朗讀ニ移ル。

三、寡婦ベルトラン / B E R T R A N D / 夫人ノ口

供書

檢察側書類第二七七二—J—I

ヲ證據文書トシテ法廷ニ提出スル。

コノ口供書中ニ、本人ハ抑留民間人デアツタ同
女ノ夫ガ西貢 / S A I G O N / 日本憲兵隊ニ於テ
拷問ニカケラレタ揚句死亡シタ屍體ヲ見出シタ詳
細ヲ述べテ居ル

(以下次頁ニ續ク)

Doc 2772

「私ハナニテ私ノ夫ガ死亡シタカ彼ニ尋ネマシ
タ。彼ハ私ニ答ヘテ言フニハ「アノ人ハ夜中
熟カアリ隊長ガ反マラリアノ注射ヲナシアノ
人ハ震タ、ソシテ今朝眼ガ腫メナイ」ト、
次ニ彼等ハ私ノ夫ノ屍体ヲ見セルタメ私ヲ一階
ヘ導キマシタ。ソノ屍体ハ一階ノ窮屈ナ昇臺ノ
上ニ一枚ノ毛布ニ覆ハレ醜イ状態ニアリマシタ。
屍体ハ血斑ダラケデ上唇ハ腫レ上リ一眼ハ良ク
閉チ他ノ一眼ハ半バ開イデギマシタ。
彼等ハ次ニ屍体ヲ軍用自動車ニ乗セ何處ヘ運ブ
ベキカ私ニ尋ネマシタ。私ハ彼等ニグラル病院
ノ屍体收容所ヘト答ヘマシタ。グラルヘ着クト
彼等ハゲント醫師長ニ屍体ヲ搬送シ、可及的速
カニ納棺スルヤウ求メマシタ。
日本人ハ自カラ戸籍文書ヲ作りマシタ。屍体收
容所ヘハ友人ノ入ルコトモ禁ゼラレマシタ。
屍体ノ告別式ト納棺カ終ルト友野大尉ハ私ニ私
ノ夫ノ死ニツキ何モ語ラスコトラ私ニ命令シタ
文ト憲兵隊カラノ百比弗 / P I A S T R E S /
ノ受取證ヘ私ヲ署名サセマシタ。
次ニ私ハ常ニ日本憲兵ニ伴ハレテ墓地ヘ行キマ
シタ。」

Doc 2772

四、檢察側書類第二七七二―E―1

モ不・ヂヤンヌ/M O N N E T J e d n n e /
ノ口供書ヲ檢証トシテ法廷ニ提出シ傍線セル拔
萃ノ部文ヲ證據文書トスル

本証證ハ特ニ日本將校ニヨル本人ノ強姦ヲ証
ルモノデアル。

「私通、ソノ時十三才ノ私ノ妹トハ同ジ部屋ノ
中、ボーイ部屋ニ寢テ居リマシタ。翌日三月
十四日夕方二十二時頃歸目（?）/SHIZUME/
大佐參謀ノ二士官デアル一少佐ト一大尉―後
ニ彼等カソレデアルコトヲ知りマシタ―ガ私
通ノ部屋ヘ這入ツテ來マシタ。

一人カ私ヲツカマヘテ居ル間ニ他ノ一人カ私
ノビチヤマノズボンヲ取り去リマシタソシテ
暴行シマシタ、ソレカラ代り合ヒ第二回ノヲ
受ケネ、バナラナカツタノデアリマス。私ハ處
女テシタカラ大層羞シミ氣配シマシタ。私ハ
コノ事カラ私ノ妹ヘ行ハレタコトヲ言ヒ得マ
セヌ。」

五、檢察側書類第二七七二―E―12

ハ佛蘭西憲兵大尉メリアン/M E R I A N /ノ

報告書アリ証トシテ法廷へ提出スル。

不證ハ受ケタ虐待ニツキ又土人苦力ガ絞殺サ
レタコトヲ記述シテ居ル

法廷ノ許可ヲ受ケ本書證ノ朗讀ニ移ル。

六、檢察側書類第二七七二―E 13

ドウニス・アヴィス / Den. I See AVISSE /
ノ口供書ヲ檢證トシソノ傍線ヲ附シタ拔萃ヲ
證トシテ提出スル。

本書證ニテ證人ハ約十五人ノ民間人ト毆人及
印度支那人俘虜ノ虐殺ヲ記述シテ居ル。彼等ノ
中二人ノ婦人西婦人ト三ヶ月ノ幼兒ガ居ツタ。

法廷ノ許可ヲ受ケ本書證ノ傍線ヲ附シタ拔萃部ヲ
朗讀スル。

七、タビユテムアライ・ツタニ / TAPUTURAI Totani

ノ口供書檢察側書類第二七七二―E 14

ヲ法廷ニ檢證トシソノ拔萃ヲ檢證トシテ提出スル。

本書證ハ證人ガ蒙ルコトヲ免レ得ザリシ強姦ヲ
記述シテ居ル。

「十時三十分頃四人ノ日本人ガ私ガ夜ヲ過ゴシマ
シタ武器庫ヘ戻レト言ヒマシタ。私ハ抵抗ヲ試
ミマシタガ彼等ハ私ヲ毆リ武器庫ヘ押シヤリマ

Dec 277

シタ。ソコヘ一人ノ兵卒ガ來テ彼ノ銃劍デ私ヲ
撃シ但ノ一人ガ私ヲ陵リ私ヲ地面ヘ倒シマシタ
私ヘ一人ガ私ヲ銃劍デ撃ス三人ノ注視ノ下ニテ
彼等ノ一人ニ強姦サレマシタ。ソノ前、彼等ハ
私ノ着物を私カラヒツタクツタノデアリマス。

八、檢察官登錄第二七七二一四一五

ラニ盤トシ傍線ヲ附シタ被奉旨所ヲ證據トシテ提
出スル。

證人ハ印度文部人デアアルガ特ニ一佛人大尉ヘノ
用ニ、十三人ノ士官及工兵ヲ雇及印度支那婦人
ヘノ赤身強姦賣淫ヲ述ベテ居ル。

法廷ノ許可ヲ受ケ本證ノ傍線ヲ附シタ被奉旨所
ヲ朗讀スル。

九、檢察官ハ證トシテ

登錄第二七七二一四一四

「エルナン・マゾーラ / Fernand MASSE /

ノ口供ヲ提出スル

證人ハ陳農 / LAMONG VAN / ニ於ケル一陸州婦

人ニ對スル強姦及殺人ト、傷ツキ後日行衛不問ニ

サツタ若イ一佛女ヘノ強姦ニツキ述ベテ居ル。

法廷ノ許可ヲ受ケ本證ノ朗讀ヲスル。

2

Doc 2772

十、ルミデユロー・ボーレット／REMYTGERREAU PAU
IETTE／供述書

檢察側書類第二七七二―A―5

ヲ法廷ニ檢證トシ傍線ヲ附シタ拔萃箇所ヲ
證―シテ提出スル。

本書證ハ一佛婦人ノ假リニル虐待及苛責ト他
ノ一佛婦人ヘノ強姦トヲ述ベタモノデアル。
法廷ノ許可ヲ受ケ本書證ノ朗讀ニ移ル。

十一、檢察側書類第二七七二―A―6

セシル・カザデュ／CECILIE CAZAJOUS／

口供書

ヲ法廷ニ檢證トシテ提出スル。ソノ顯著ナ箇
所ヲ證據トスル。

本書證ハ前ノ書類第二七七二―A―5 法廷證
據書第、々、ヲ完結スル、而シ本書證ハ又
河江／HAGIANG／（東京／TONKIN／）安
邊／YEN BIEN／橋ニ於ケル二十三ハノ佛
軍人伴房ニ對スル虐殺ヲ述ベタモノデアル。
法廷ノ許可ヲ受ケ本書證ノ傍線ヲ附シタ拔萃
箇所ヲ朗讀スル。

十二、ムーレ・アルベール／MOULLET ALBERT／大

隊長ノ口供書

檢察側書類第二七七二―A―3

10.

Doe 2772

ヲ檢證ノ爲法廷ヘ提出シソノ記號ヲ附シタル
拔萃箇所ヲ證書トスル。

本書證ハ二人ノ誘婦人ニ對スル特ニ憎イ強姦
ト殺人ノコトヲ述ベテ居ル。ノミナラズ又本
書證ハ河江ニ於ケル俘虜ニ對スル死刑執行ノ
明細ヲ與ヘテ居ル。

便宜上又裁判所ノ許可ヲ得テ吾人ハ本書證ノ
傍線ヲ附シタ拔萃箇所ヲ「俘虜」ニ關スル部
分ヲ取扱フ時ニ朗讀スル。

十三、檢察官第二七七二一D一三

メリアン／MERIAN／佛憲兵大尉ノ報告書
ヲ書證トシテ法廷ニ提出スル。

本報告書ハ北寧／BAO NINH／ノ三人ノ印
度支那人ニ與ヘタ殴打及致傷ト之等暴行ノ爲
メ彼等ノ中一人ハ死亡シタコトヲ述ベテ居ル

十四、檢察側書第二七七二一D一+

佛官吏メリアン／MERIAN／意兵大尉ノ
報告書

ヲ法廷ニ書證トシテ提出スル。

本書證ハ印度支那人逃難者／PHUNG DUY
THIEU／及一婦人シュレナ／SURENA／カ
河内／HANOI／日本憲兵隊ニ於テ受ケタ虐
待ト拷問ヲ記述セルモノデアル。

Doc 2772

十五、檢察側書類第二七七二―D―5

憲兵大尉メリアン／MERIAN／ノ報告書ヲ
宣誓トシテ提出スル。

本書類ハ一九四二年一佛人カザビアンカ氏／
CASSABIANCA／カ河内／HANOI／日本憲兵
隊ノ一監房ニ關デコメラレ重大ナ亂暴ニ通ッ
タコトラ記述シテ居ル。

十六、ベベン・ピエール／BABIN PIERRE／ノ口供

書

檢察側書類第二七七二―D―7

ヲ宣誓トシテ法廷ヘ提出スル

本書類ハ河内／HANOI／ノ保安警察署及
監獄ニ抑留サレタ佛民間人カ受クルラ余義ナ
クサレタ拷問及虐待ヲ記述シタモノデアル。
法廷ノ許可ヲ受ケ本書類ノ朗讀ニ移ル。

十七、河内／HANOI／掃蕩士フィリップ・デュクスネー

／PHILIP DUQUESNAY／氏ノ口供書

檢察側書類第二七七二―D―8

ヲ宣誓トシテ法廷ニ提出スル。

證人ハ河内／HANOI／監獄及日本憲兵隊ニ
ヨリ監獄ニ模様替サレタシエル會社（赤貝、
ハグンタード、オイル會社）ノ建物ニ抑留サレタ佛
國西民間人ニ對シ行ハレタ拷問及虐待ヲ記述

12.

Doc 2772

セルモノデアル。

本署証ハ既ニ提出シタ書類第二七七二一D一

〃云々証人第、〃〃〃ニアル獄屋制度ヲ聞

スル説述ヲ完結スルモノデアル。

十八、檢察側書類第二七七二一D一9 河内／HANOI

／婦人グイ・ヌーリ／GUY NOURRIT／

氏ノ口供書

ヲ檢證トシテ提出スル。

證人ハ河内保安待察署ニ拘留サレタ佛國人、

受ケタ待遇ニ關スル記述ヲナシテ居ル

法廷ノ許可ヲ受ケ本署証ヲ法廷ニ朗讀スル。

十九、檢察側書類第二七七二一D一10

タルバ・アンリ／TALBA HENRI／ノ口供書

ヲ檢證トシテ提出スル。傍線ヲ附シタ抜萃ノ

ミヲ檢證トスル。

證人ハ松／PONG／ニ於テ日本憲兵隊ヨリ受

ケタル拷問ノ説述ヲシテ居ル。

法廷ノ許可ヲ受ケ本署証ノ傍線抜萃箇所ヲ朗

讀スル。

二十、タングイ・デュセフ／TANGUY JOSEPH／ノ

口供書

檢察側書類第二七七二一D一11

ヲ檢證トシテ法廷ニ提出スル。記號ヲ附シタ

抜萃箇所ヲ檢證トシテ供與スル。

本署証ハ河内／HANOI／ニ於ケル一佛人夫妻ノ殺人ヲ記

述シテ居ル。

13.

14.

Dec 2772

二十一、檢察側書類第二七七二一D一12ベルゴ

テール。アントアンタ／BELGOI

DEREANTOINE／ノ口供事ヲ書

證トシテ提出スル。

本證人ハ河内／HANOI／ジェル（
赤貝）會社ノ建物ニ抑留サレタ者デア
リ僑民間人ニ與ヘラレタ虐待及拷問ヲ
述ベタモノデアル。證人ハ特ニ之等殘
虐ノ體性トナリ死亡シタ一歐洲人ニツ
キ語ツテ居ル。本證ハ既ニ提出シタ
書類第二二七二一D一18法廷證據書第

號ヲ完結スルモノデ一私ハ

何處モ、ローラン／LAURENT／

氏ガマガネット刑ニ掛ケラレルノヲ見
マシタ。

私ハ五月十四日監獄デ、リツテイ／

LITTEE／マゼルム／MAZERM

氏等ニ加ヘラレタ棍棒殴打ニヨル拷問

ノ場面ノ證人デアリマス。

私ハ四月十五日セロ／CERO／氏ト

對質サセラレタノデ行ニ日本人が行ツ

Doc 2772

タ金剛ノ角アル堅木ノ定規ニヨル暴行
ノ證人デアリマス。之等暴行ヘソノ用
器ノ性質上輕微デハアリマスガ最モ器
弱ナ健康狀態ニアリ更ニ二日後死亡シ
タコノ犠牲者ニ取ツテ苦シイコトデナ
イ筈ハナカツタノデス。レ

二十二、檢察側書類第二七七二―FILEロベ
ル・マルセル／ROBERT MARC
L／ノ

口供書

ヲ法廷ニ檢證トシテ提出スル。記號ヲ
附シタル拔萃箇所ノミヲ書證トスル。
コノ證人ハ一人ハ佐官デアツタ二人ノ
日本將校ニヨリ命セラレタ拷問ノ高平
／CAO・BANG／ニ於ケル犠牲者
デアリ之ノ拷問ニツキ述ベタモノデア
ル。法廷ノ許可ヲ受ケ本書證ノ記號ヲ
附シタル拔萃箇所ヲ朗讀スル。

Doc 2772

16.

二十三、ボリ・ドミニツダ／POLIDOMI
MIQUIL／ノ口供を檢察側尋問第二
七七二―G―Lヲ査證トシテ法廷ニ提
出スル。

本査證ハ證人が河内／HANOI／日
本憲兵隊ニテ耐エタ拷問ヲ物語ルモノ
デアル。

「翌日七時私ハボンナル街ニアル日
保安警察署ヘ導カレ、ソコデ或ル場所
ヘ伴レラレ脱衣ヲ命セラレソノカラ背ヲ
平ニシテデ―アルノ上ヘ縛ラレマシタ
私ニ何モ言ハナイデ何度モ水責メノ刑
ヲ加ヘマシタ。次ニ私ハ縛ヲ解カレ、
衣服ヲ着ケソシテ良ク考ヘヨト言ヘレ
マシタ。次ノ日同一ノ加刑ガアリマシ
タガコノ時ハ一日中デシタ。ソノ次ノ
日私ハ子供達ノ居ルトコロデ責メルト
思サレマシタ。ソシテ一日中拷問ニ掛
ケラレマシタガ私ノ子供ハソコヘ伴レ
テ來ラレナガツタノデス。二十七日マ
デハ、コノ日ハ私が銃殺サルベキ日委

Dec 2772

アツタノテスガソノヨマテ毎日食メ新
糧サレマシタ。二十七日ニ私ハ決定的
ニ保安官署へ再ヒ進ベレソコデ他ノ
友達ト一伴ニ恒會ヘ入レラレマシタ。

二十四、檢察側書類第二七七二一〇一三

リムーセン・フランソア / LIMAO
USINFRANCOIS /

口 供 書

ヲ警整トシテ法廷ニ提出スル。

本書證ニ於テ證人ハ私レ自身耐エタル
虐待及海防 / HAIPHONG / ニテ
押賣サレタ物証人ガジエル會社（赤貝
會社）ノ地物及中央監獄ニ於テ受ケタ
虐待ヲ叙述シテ居ル。裁判所ノ許可ヲ
受ケ本書證ノ朗讀ヲスル。

二十三、クラブ。デアンス / CLAVEVL 食
NL /

口 供 書

檢察側書類第二七七二一〇一三

ヲ警整トシテ法廷ニ提出スル。

クラブ夫人ハ銃劍ニテ殺ラレ自分ノ家
ガ掠奪サレ又強姦未遂ノ證人デアルコ
トヲ述ベテ居ル。

17.

二十六、メリアン／MERIAN／賣兵大尉ノ

報告書

檢察側書第二七七二IG15ヲ書證
トシテ提出スル。

本報告書ハ窃盜ノ虚偽的告訴ニヨリ撰
サレタ建安／KIEN・NAN／水原
／THUYNGUYEN／ノ一度支那
ニ興ヘラレタ期間狀ヲ述ベタモノデ
アル。

二十七、檢察側第二七七二IG14

シニヴエン・ルー／GHEVIN・L
OUIS／ノ

口供書

ヲ書證トシテ法廷ヘ提出スル。
本書證ニ於テシニヴエン氏ハ初メ
タ亂暴及殘虐及海防／HAIPHONG
G／附近ニ於テアメリカ飛行機乗組員
ヲ虐殺シタコトニツキ述ベテ居ル。
法廷ノ許可ヲ受ケ本書證ノ朗讀ヲスル。

二十八、檢察側書第二七七二IG14

ヲ檢證トシテ提出シ記録ヲ附シタル
所ヲ書證トスル。

本報告文ハ該犯聯邦局囑託監視マソ。

Doc 2772

19.

マシヤル / M A S S O T M A R T I
L / ノ二報告書ヨリ成ル。

ズ登載ハ一九五四年第 / L O N G T
H A N H / ニ於ケル十五人ノ中五人ヲ
死刑ニ處シタ。報告書ト屍體發掘ノ
報告書トヨリ成ル。

法廷ノ許可ヲ受ケ記號ヲ附シアル按察
官ノ島嶼ヲスル。

二十九、檢察官書類第二七七二 I K I L

カルチエ / C A R I E R / 軍醫少尉
ノタケツク / T H A K H E K / ニ於テ
行ヒタル屍體發掘ニ關スル報告書ヲ登
載トシテ提出スル。

十七ノ發掘サレタ屍體ハ集團的殺害ノ
際タケツクニ於テ處刑サレタ朝鮮軍五
人及民間人集團ノモノデアル。

法廷ノ許可ヲ受ケカルチエ軍醫少尉ノ
叙述ヲ朗讀スル。

Doc 2772

20.

三十、檢察側書類第二七七二—J—5

東京検視局四使節ヨリ聯合口算司令部へ宛
テ々々宛に送及報告書ノ寫云
ヲ呈遞トシテ提出スル。

云々送ヘ一方、仙民間人ニ對シ四貢ノS A I、
G O Nノ及社派ノP H A D・T H I E Tノニ
於テ各々宛サレタ人及持間ヲ伴フ監禁ノ爲
メ刑罰分別ニ成セラレタ二人ノ日云人ヘノ
四貢及監禁等裁判ノ刑罰ヲ通ベタモノデア
ル。

云々官ハ殺人ノ被害デアツタ第一囚人斎藤清ノ
原文K I M Y O S H Iノノ刑事事務記録ヲ引
用スル

「一九四五年八月十八日ドクター・アンデエー
ロウ假以谷所ニテ保安警察署以正監視レイニ
シ。デドゥロノRAYMOND・D I D E L
O Fノ五十才ハ死亡シタ。

之ノ死亡ノ責任者ハ警察署長大尉タト言ヘル。
多クノ口頭申出ト書面ニヨル注意アリタルニ
拘ハラズ一九四五年四月二十日以來爲口達ノ
S P R U Eノニ信病セルデドゥロ氏ノ病氣ヲ
重大アラズトナシ彼ノ生命ニ危険ヲシトシテ

Doc 277c

キタ。

齋藤ハ頑強ニデ氏ノ入院ヲ拒ミ彼ノ病氣ニ必
要トスル藥品ヲ持来々スコトスラ拒シタ。
死亡スル間後デ氏ハ体重四十瓩ヲ失ヒ既ニ無
意ニデアツタノニ齋藤ハ容態ガ持直スコトラ
マダ言シタ。多クノ証人ノ言ニ依ルト不道
徳ナノト白人憎惡ノ爲メ齋藤ハ彼ノ責ニアル
國人ノ死ヲ徹底則ニ放棄シタ。他方、齋藤ハ
クラチエノK R A T I Bノニ於テ一九四五年
四月民同人以容所ヲ管理シタ。齋藤ハ西貢ノ
S A I G O Nノ信託軍事裁判所ニ於テ一九四
六年十月二十一日ノ公判ニ召喚サレタ。同
人ハ彼ニ對シ逮捕サレタ事實ノ犯罪人ナリト
宣言サレ八年間ノ強制労働刑ニ宣告サレ犯人
ノ爲メノ拘留禁止ハ免除サレタ。

故高砂軍事裁判所ヘノ上訴トアツタ。一

次ニ持同ヲ伴フ監禁ノ廉ニテ告訴サレタ第二囚人
清田勝彦ノ原文K I Y O T A ・ K A T S U H A
M Iノノ刑事事案説明書ヲ引用セバ

「一九四五年二月十五日ヨリ降伏マデ齋藤ノ

P H A M T H I E Tノノ日本憲兵分隊長。

彼ハ一九四五年三月九日以降各道ノ口實ノ下
ニコノ街ノ日本憲兵隊ノ監房ニ幽閉サレタ齋藤

Doc 2772.

渡辺口面人横住者ニ對スル重大ナ虐待及至
シノ虞云人デアアル。

コノ下士ノ横住者ノ中ニ特ニ一人ノ宣教師
ガアリソノ六十才ニテ病身デアアルアリユデ
ドウィ／BRUGIDOUノ師ニ對シ持田
ハ特種ノ刻忍サヲ以テ喰ヒ下ツタ。コノ下
士ハ一九四六年二月二十五日芝化／UHI
H.O.Aノ監獄ニ於テ行ハレタ検査預見セノ
時彼ノ横住者トニヨリ防備ニ指示サレタノ
デアアル。

持田ハ西貢常設軍事裁判所ニ於テ一九四六
年十月二十一日ノ公判ニ召喚サレタ。同人
ハ彼ニ對シ指摘サレタ事實ノ犯罪人ナリト
宣告サレテ同ラ伴フ監禁ノ處ニヨリ十年間
ノ強身強制刑ヲ宣告サレタ。

最高級軍事裁判所ヘノ上告ハナカツタ。レ

尙又同第二七七二一J一五ハ西貢常設軍事裁判
所ニ於テ被告人ノ告訴ヲ受ケ裁判サレテ死刑サレタ七
人ノ日云人等ハ廷右ヲ示シテ居ル之等ノ中二人
ハ終身強身強制刑ニ附サレ他ノ五人ハ死刑ニ戻セ
ラレタノデアアル。

B一俘囚

提起証言

Doc 277.

23.

勿論西條第二部ヲ法廷ニ陳述スルニ先立テ、
吾人ハ臨ニ難出シタ民間人ニ因スル行類ノ或ルモ
ノハ前庭又該ニ於ケル付シ待遇ニ因スル證據物件
タルコトヲ得ルモノナルコトヲ喚起スルモノデア
ル。

参考ノ爲メ之ヲ引用セバ之等ハ右頁第二七七二一
I I 1 法廷證據書第 . . . デュリアン・レミ
/ JULIEN REMY / ノ口供書、榮 /
VIII / 市 (安南 / ANH AM /) ノ日本憲兵隊
署ニ於ケル一アメリカ兵連尉校ヘノ拷問。右頁第
二七七二 I B 1 3 法廷證據書第 . . . フウニズ。
アザイス / DEHISE AVISSE / ノ口供
書ハ約十五人ノ人ニ交ツタ付シノ殺戮ニ因シタモ
ノデアル。右頁第二七七二 I B 1 5 法廷證據書第
. . . 一囚人大尉ヘノ刑罰ト十三人ノ將校及
工兵ノ殺戮トヲ述べテ居ル。右頁第二七七二 I A
I 6 法廷證據書第 . . . セシル・カサデュー /
OECILE CAZAJOUS / ノ口供書ハ (東京 /
TOKIO /) 河江 / HAGIANG / 安邊 /
YEN. BIEN / 橋ニ於ケル二十三ノ
俘虜虐殺ヲ述べテ居ル。右頁第二七七二 I G 1 4
法廷證據書第 . . . シュヴァエン・ルイ / CHE
VIN LOUIS / ノ口供書ハ海防 / HAI .

Doc 277

PHONG / 郊外ニ於ケルアメリカ飛行機乗組員ノ
屋敷ヲ新ツテ居ル。書類第二七七二-IK-1 法廷
檢察官、。。。カルチエー / CARTIER /
軍醫少尉ノ屍骸發掘報告書ハ老樹 / LAOS /
ケツク / THAKHEK / ニ於ケル佛蘭西軍人兵
刑ノ証人ヲ與ヘ々セノデアアル
本官ハ法廷ノ許可ヲ受ケコレヨリ停止ニ付スル他
ノ書類ヲ法廷ニ提出セントスルノデアアル。
一 檢察官書類第二七七二-IJ-2
憲兵隊副長アンツィアル・レオン / ANTOU
ARD LEROH / ノ口供書
ヲ證據トシテ法廷ニ提出スル。
記號ノ附シアル、執筆ノ箇所ヲ證據トシテ提出
ス。
證人ハ彼ガ他ノ停止ト共ニ交配更新 / UOH
LUOH IHE / ノ執筆 / MYTHO / ニ於テ
又四頁 / SAIGON / 日本憲兵隊ニ監禁サレ
タ當時彼ガ服役トアツタ處待ニツキ脱走シテ居
ル。
法廷ノ許可ヲ受ケ本書類ノ記號ノ附シアル執筆
箇所ヲ附録スル。

Doc 2772

25.

二、植民報社第二七七二—J—3

ボーヴァレツ / BEAUVALETT / 大尉ノ報告書ヲ

後證トシテ法廷ニ提出スル

特記ノ章句ヲ後證トシテ差出ス。

此ノ報告書中、ボーヴァレツ大尉ハ西貢日本憲兵
隊員ニ於テ彼ガ受ケタル虐待ト拘問、彼監禁人ノ生
活ヲ記述シ、六人ノ民間人及俘虜ガ受ケタル待遇
ト手當ノ缺除ノ往來トナリ死亡シタコトヲ述ベテ
キル。

本書證ノ記號ノ附シアル抜萃個所ヲ法廷ノ許可
ヲ受ケ朗読スル。

三、ルーアン。デヨルテユ / ROUAN Georges /

植民草草醫大尉ノ口供書

植民報社第二七七二—D—1

ガ後證トシテ法廷ニ提出サレ、記號ノ附シタル

抜萃部ガ後證トシテ差出サレル。

此ノ報告書中、ルーアン醫師ハコスト / COSTE /

軍醫少佐ガ彼ノ手術衣ニ萬國赤十字ノ徽章ヲ附シ

テ盾ツタニモ拘ラス刀劍ニ拔打ちニヨリ彼ノ執務室ニ

テ殺サレタコトヲ述ベテキル。

Doc 2772

26.

法廷ノ許可ヲ受ケ平右衛門ノ記號ノ附シアル拔萃
部ヲ朗読スル。

四、被暴傷者第二七七二—D—2

クナルテル。アンドレ / QUEHARDEL, Andre /

醫師ノ口供書

ヲ檢閲トシテ法廷ニ提出スル。ソノ記號ノ附シア
ル拔萃部ヲ檢閲トシテ差出ス。

彼ノ口供書中醫師クナルテルハ特ニ「負傷シタ
俘虜ニ對スル取扱ハ毒虜條約ニ違反シタモノデア
ルコト及河内 / HANOI / ニ於ケル俘虜處刑ニツイテ
述べテキル。

「三月九日及十日ノ戦陽直後ノ頃最モ見ルニ忍ビ
ナカツタ光景ノ一ツハ、遺棄ソノモノノ中ニ日本
人ニヨリ飢餓西軍ノ負傷兵ガ置イテアツタコトデ
アリマス。

トンキン射撃兵第一聯隊 / 1er R.F.E. / ノ一兵營
内デハ軍醫長 / COSE / 軍醫少佐ガ日本兵ニ
虐殺サレマシタ。凡テノ負傷者ハ遺棄サレタ儘デ、
斯ク三日目ニ我々ハ負傷者ヲ救フコトガ出来マシタ。我々ハ
特ニ一射撃兵ニ關スル思ヒ出ヲ持ツテキマス。コノ射撃兵ハ庭ノ
奥中デ股ニ大傷ヲ受ケ同シク三夜ト三日中自分ノ血ニ漬リ不動ノマ

Doc 2772

マ止マリ、彼ノ傍ヲヲ通過シタ多クノ日本人カラ
些少タニ助ケヲ受ケズ、喉ノカワキデ死ナンバカ
リデアツタ。ノミナラズ之等ノ日本人ハ一頁ニ一
俣ニ西人負傷者ニ集マツタ場所ヲ去ルコトヲ徹底
的ニ察ジテ居リマシタ。

。 。 。 。 。
。 。 。 。 。

私ハ私ノ目テ見タ場合バカリヲ引用スルノデス
ガ、又エスケール / ESCALIER / 大長ガ他ノ多クノ場
合ノ證人デアリマスガ、私道ハ死人ノ中ニ一少尉
ト二曹長ガ手ヲ背中ノ後方ニ縛ラレ、心腹ノアタ
リニ彈丸ノ傷跡ヲ現ハシテキルノニ出倉フノヲ殆
ンド驚カナカツタノデアリマス。疑ヒナクコレコ
ソ俘虜等ニ士官ヲ選ンダ處刑ナノデアリマス。我
タニハ斯カル處刑ノ動機ヲ説明スルコトガ不可能
デアリマシテ、處刑人等ノ死体ハ多クノ場合他ノ
死人トゴチャ交ゼニナツテキマシタ。 一

五、印度支那人軍曹裴定旭 / Ho Dinh Bao /

口供書

後錄備書第二七七二一〇一

ヲ證トシテ提出スル。

27.

Doc 2772

証人ハ、彼ノ口供中、物走/VATCHAY/（東京
/TOKIO/）ノ兵營ニ居ツタレバ西人幹部ノ豫メサ
レタコトニツキ述べテキル。

法廷ノ許可ヲ受ケ本証人ノ朗讀ヲスル。

六、法廷へ証人トシテ

租民軍軍醫ザルト。ローラン/pORTE Laurent/
ノ口供

檢察側書類第二七七二一B一
ヲ提出スル。

此ノ証人ハ和平/HOA BINH/ノ収容所ニ監禁サレ
タ後ハニ獄スル取扱振リヲ述べテキル。

法廷ノ許可ヲ受ケ本証人ノ朗讀ヲスル。

七、ローラン。アノリ/LAURENT Henri/ノ
口供

檢察側書類第二七七二一B一2

ヲ朗讀トシテ法廷ニ提出スル。記號ノ附シアル
抜本部分ヲ朗讀トシテ提出ス。

和平/HOA BINH/ノ収容所待遇ニ關スル本証人
既ニ提出済ミノ檢察側書類第二七七二一B一2

28.

Doc 2772

29.

法廷証人第、、、、番第ヲルト /PORTE/ ノ口供
書ヲ完結シテ居ル。

「八月一日和平 /HOA BINH/ 一四十志米ノ復讐收容
所一へ送ラレ、私ハ次ノ様ナ事實ヲ目撃シマシタ。

毎朝、労働ニ出掛ケル前ニ、病人一帯ニ瘴氣病
者ト赤痢病者一ハ彼等ノ住テ居ツタ小屋ノ前方ニ
集メラレタ。コノ時且長デアル一日至下士ハ地上
へ半バ失神シテ倒レルマテ、病人ヲ棍棒デ殴リマ
シタ。下士ハソレカラ病人ニ立上ルコトヲ強要シ
テ、全ク動かナイマテ再び病人ヲ殴リ、病人ヲ選
シマシタ。特記スベキコトハ之ハ病人へハ、労働
ニ加ハラスト云フノテ二度ニ一度食事ガ取リ上ゲ
ラレテキタコトデアリマシタ。」

八、復讐側行第ニ七七二一A一ユ

准尉シユリラー /SURYAU/ ノ供述書

ヲ復讐トシテ法廷ニ提出スル。

本行証人河江 /HAGIANG/ ニ於ケル停尸ノ處ヲ
物語ツテ居ル。

法廷ノ許可ヲ受ケ吾等ハ本行証人ノ朗讀ヲ法廷ニ
テ爲サントスル。

九、看護准尉ポテン／POTIN／ノ供述書檢察側
書類第二七七二―A―12ヲ書証トシテ法廷ニ
提出スル。

コノ書証ハ河江／Hagiang／川河畔ニテ處
刑サレタ約二十人ノ俘虜集團ニ對スル虐殺ヲ
説述シタモノデアル。
コノ書証ハ又外國部隊ノ一兵ニ對スル殺戮ヲ述ベ
テ居ル。

本書証ノ朗讀ヲ法廷ノ許可ヲ受ケテスル。

十、檢察側書類第二七七二―A―13法廷證據第一

―1―ムーレ・アルベール／MOULLETT
Albert／大隊長ノ口述書ハ檢証トシテ既ニ
提出サレシモノニテ傍線ノ附シアル抜萃部分ヲ
書証トシテ提出スルモノデアル。

本書類ハソノ要略ヲ彼ガ毎ヘ居ル河江／Hagi-
ang／ノ俘虜虐殺及二人ノ婦人ニ對スル強
姦ト殺人トヲ述ベタモノデアル。

法廷ノ許可ヲ受ケ傍線シアル抜萃部分ヲ朗讀
セントスル。

十一、古川大尉ノ調書、檢察側書類第二七七二―A
―17ヲ書証トシテ法廷ニ提出スル。

本書証ハ佛婦人二名ニ對スル強姦及殺害ニ關
スル前書証即チ第二七七二―A―13法廷受理

Doc 2772

証據書第一一〇一號ヲ完結スルモノナリ一古
川ハシン・マン/XIN MAN/ニ於テ二人ノ
俘虜士官ヲ殺シ、竹坪ナル者ヲ補助者トシテ
貴所飛/HOAG SU PHI/兵營ノ四十人ノ
佛人及印度支那人ノ俘虜ヲ處刑シタコトラ目
白シテ居ル。

本官ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ本誓証ヲ朗讀スル。
十二、本官ハ檢察假令第二七七二一〇一二土亞福
/SI A PHUO/ノ口供書ヲ檢證トシテ法廷
ニ提出スル。

ソノ記號ヲ附シタ部ヲ誓証トシテ提出スル。
土亞福ハ湄河/AM HA/ニ於テ一佛兵ガ日
本兵ニ生キナガラ突サレタ辱刑ヲ語ツテ居ル。
本官ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ本誓ノ記號ヲ附シ
タ按察部ヲ朗讀スル。

十三、檢察例第二七七二一〇一三

貴丁YONG DENG/印度支那一等兵ノ口述書
ヲ檢證トシテ裁判所へ提出シソノ記號ヲ附シ
タ個所ヲ誓証トスル。

供述書中兵卒貴丁ハ定立/DINH LAP/ニ
於ケル俘虜一佛人士官、一印度支那人軍醫中
尉、一佛人伍長及十九人ノ印度支那射撃兵ニ
對スル殺害ヲ語ツテ居ル。

裁判所ノ許可ヲ受ケ本誓ノ記號ヲ附シタル按
察部所ヲ朗讀スル。

十四、法廷ニ檢証トシテ

檢察側書類第二七七二―E―7

一 毎兵クロン／CRON／ノ供述詞書ヲ提出ス
ル。記號ヲ附シタ拔萃個所ヲ書証トスル。

証人ハ同登／DONG DANG／兵營ノ俘虜處殺
カラ宛ガレ五十人ノ傷人及印度人ニ對スル處
刑ヲ語ンテ居ル。

法廷ノ許可ヲ受ケ本書ノ記號ヲ附シタ拔萃個
所ヲ朗讀スル。

十五、檢察側書類第二七七二―E―6

シヨ・メット・ルイ／CHOMETTE Louis／

少尉ノ口供書

ヲ書証トシテ法廷ニ提出スル。

証人ハ諱山／LANGSON／ノ俘虜處殺カラ傷
ツキ通ガレ士官及兵卒ニ對スル處刑ハ物語ヲ
ナシテ居ル。

法廷ノ許可ヲ受ケ本書証ノ朗讀ヲ法廷ニ成サ
ントスル。

(終り)